

山口県小学校長会報

発行所
山口県小学校長会
代表者 村川直樹
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎ 083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

令和元年度を振り返って



山口県小学校長会 副会長 松本正子

一 はじめに

令和という新しい時代の幕開けとなった今年度、山口県小学校長会は村川直樹会長の下、十五支部、二百八十五名でスタートした。令和二年度から完全実施となる新学習指導要領に対応し、子どもたちの学びの進化に向けた教育課程の充実が求められる一方で、教職員の人材育成や働き方改革等、学校として取り組むべき課題が山積している。

このような中、小学校長会では、今年度も「学校経営の充実」「調査・研究活動の充実」「生きる力」の育成を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善「教職員の資質能力の向上」「教職員の定数や処遇の改善」の五つに重点を置き、様々な活動に取り組んできた。

五月十日の総会並びに春季教育研究大会では、昨年度からの研究主題を継続するとともに、新たに副主題を「社会の変化に挑み 高い志をもって 未来を切り拓いていく子どもを共に育てる学校経営の推進」とすることが決まり、一年間の研究の方向性が確認された。また、新たに策定した「教育信条」も披露され、全会員で声高らかに唱和し、心一つにすることができた。

十月二十五日の秋季教育研究大会では、國學院大學教授 杉田洋様に「よりよい子どもを育て、学校を創る校長力」特別活動等の集団における教育力の再構築と活用」と題して御講演を頂いた。また、午後からは、十の研究領域別分科会に分かれ、各担当支部の提案発表を踏まえた熱心な研究協議が行われた。どの分科会においても、校長としての役割を明確にしながら、課題と成果を共有することができ、意義のある大会となった。

二 研究の推進

五月十日の総会並びに春季教育研究大会では、昨年度からの研究主題を継続するとともに、新たに副主題を「社会の変化に挑み 高い志をもって 未来

三 研修の充実

各支部の研修活動と連動し、理事会においても、年間テーマを「人材育成を担う校長の在り方・生き方」として、

講演や情報共有等の研修を実施した。七月には「教職員のやる気を引き出す楽しい職場づくりにおける校長の役割」と題して、元山口県中学校長会長 塚田拓司様に落語を交えた御講話を、十月には「日本一の育成・普及型クラブを目指して」選手育成とスタッフ育成」と題して、サンフレッツチェ広島アカデミー部長 山出久男様に御講話を頂いた。

人材育成の本質を考えさせられる学校や福祉現場での実践や、サッカー指導を通じた専門家ならではの視点等様々な御示唆を賜り、学校経営の根幹は人づくりであるとの認識を改めてもつ機会となった。

四 おわりに

社会の変化のスピードは加速化し、それに対応できる人材を育成するため、学校に期待される役割は年々増加していく一方、教職員の過重労働への対応等も喫緊の課題である。教育の質を向上させつつ、働き方改革も推進し、学校が、そこで学ぶ子どもたちにとっても、働く教職員にとっても魅力あふれる場所であり続けたい。そのためには、学校のリーダーである校長自身が、子どもや地域の実情、教職員組織等の課題に応じて、いかに具体的な動きをしていくかが重要な鍵となってくる。

来年度は、本県で中国地区校長会教育研究大会が開催される。課題解決に向けた研究を一層深めていくとともに、会員相互の連携を図りながら、山口県小学校長会が、組織としてより深化・発展していく一年にしていきたい。

全連小報告

これからの学校経営を考え
た二日間

岩国市立錦清流小学校長
山中 尚



第七十一回全国連合小学校長会研究協議会が昨年十月十七、十八日の二日にわたり秋田市で開催された。

初日午前の文部科学省講話では、来年度からの教育課程について、「新しい時代の教育の在り方」「学校における働き方改革」「教育の情報化の推進」等、いくつかの視点から御指導を頂いた。

午後は最終年を迎えた大会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」について、第七分科会(研究・研修)の協議に参加した。そこでは、校長の役割・指導性として二点を把握してブランドデザインを提示することや、ベクトルを揃え「チーム学校」のよさを実感するための働きかけの重要性を再確認した。

二日目のシンポジウムでは、秋田県ゆかりのお三方が「ふるさと・志・未来創造」をテーマに話をされた。中でも読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏の「先生は全人格的な仕事であるという自覚をもつこと」という言葉に氏の熱いメッセージを感じた。高度情報化社会での学校経営について多くの示唆を得た大会であった。

退職なさる校長先生方 からのメッセージ



岩国市立藤河小学校

坂根 隆明

初任校 萩市立越ヶ浜小学校

座右の銘 「健康」日々是新なれば すなわち日々是好日

「不確実性の時代」という言葉を知ったのは、私が学生の頃だった。四十年経った今、「モノ・コト・ヒト」が大きく変化した。音楽記録媒体は、レコード、テープ、CD、ストリーミ

造する力は、素晴らしい。

新人類の登場から二十万年、進化してないのは、ヒトのココロであり、争いが絶えないことを憂う。頓首再拜

岩国市立通津小学校

宮井 信明

初任校 油谷町立油谷小学校

座右の銘 刻石流水

「和をもって尊しとなす」の精神で先生方と接してきた。それと「健康第一」。先生方もご自愛を！



岩国市立装港小学校

岡瀧 道信

初任校 大島町立明新小学校

座右の銘 無いものを嘆くな あるものを生かせ

「チームとしての学校」という学校像が示される今、校長には多様な人やものを有機的に結びつけ、共通の目標に向かって動かす能力が求められている。その際、人やもの、環境の不足に

嘆いてしまうことも多いが、教育活動の質を高めるためには、今あるものをいかに活用するか、教職員の力を伸ばしていくことができるかが大切であると常に自分に言い聞かせてきた。



岩国市立愛宕小学校

世良 泰章

初任校 徳山市立菊川小学校

座右の銘 朝の来ない夜はない

教職人生の中でいろいろな試練に出会い、心が折れそうになった時も、私は常に前向きでありたいと考えていた。そして、「何とかなるさー!」(ケ・セラセラ)と心を奮い立たせ、何とか乗り越え、多くの支援を受け、子どもたちとともに歩めたことを幸せに思う。

岩国市立川上小学校

手嶋 隆之

初任校 油谷町立大平小学校

座右の銘 あの坂をのぼれば 海がみえる

「校長先生って、校長先生の中でもレアですよ」と、三年前に新採四年目の先生に、「校長先生って変わってますよね」と、昨年度、二十代の主事に言われた。確かにずっと以前より、

他の先生方の意見や行動、感じ方と自分は少し違うと感じていた。そのことで迷惑をかけた、喜ばれたりした。「それでいいんだ」と、思っている仲間を支えられながら、退職する。

岩国市立宇佐川小学校

村上 尚乃

初任校 山口県立田布施養護学校岩国分校

座右の銘 「今!」を逃さずそして臨機応変に

自分の歩みを振り返ると、出会った全ての方に育てて頂いたという感謝の思いが強い。特に、私を成長させてくれたのは子どもたちである。どうすれば心を開くのだろう。どんな言葉がけ

なら心に届くのだろう。どんな授業なら分かった楽しいと思ってくれるのだろう。子どもの反応を見ながら試行錯誤した日々。出会いに恵まれた教師人生だったと感慨もひとしおである。

岩国市立美和東小学校

平井 恵子

初任校 下松市立花岡小学校

座右の銘 過ぎたるは及ばざるが如し

好きな言葉は「ほどほど」。もちろん全力を出し切らず、八割程度の力ですませるという意味ではない。自分の考えに固執したり、世の中の流れに迎合したりして、極端に走らないように

したいという意味だ。何事にも一長一短ある。広い視野で、全体の中のバランスを大切にしたい。だから、あなたは何も極められなかったのだというご指摘を受けそうだが・・・



岩国市立美和西小学校

池本 武志

初任校 光市立島田小学校

座右の銘 ピンチはチャンス (禍福は糾える縄のごとし)

春浅み 野中の清水 氷居て
底の心の 知る人ぞなき 井伊直弼
安政の大獄の頃に詠んだというこの
歌が好きである。命をかけて決断・実
行した気構えと、誰にも理解されない
かは、校長の知恵と汗次第である。

柳井市立柳井小学校

西元 良治

初任校 下関市立川中西小学校

座右の銘 春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら慎む

退職までの勤務校は、初任の川中西
小、へき地の平郡東小、大規模校の良
城小、そして母校の柳井小の四校。
良城小では縁あって、教頭として七
年後に校長として再度の着任。挨拶回
り、多くの地域の方から「おかえり
なさい」と言われた。教頭時代に
of face を心掛けていたため、その評価
をいただいた思いがし、その後の地域
との連携を進める心の支えとなった。

柳井市立柳井南小学校

弘田 和彦

初任校 油谷町立菱海中学校

座右の銘 反省なき者 進歩なし 努力なき者 勝利なし

中学時代に「教師になって子ども達
と共に学び成長していきたい」と思い
教師になった。特に部活動を通して体
験し学んだことが自身の人生に大きく
影響したので、子ども達にも学業だけ
でなく行事や部活動等で多様な経験を
積み、卒業式を迎えさせたいとの願い
を抱き、三十七年間教職に携わってき
た。在任中、多くの方に支えていただ
いたことに心から感謝申し上げる。

周防大島町立三浦小学校

廣川 修司

初任校 山口県立盲学校

座右の銘 為せば成る 為さねば成らぬ何事も

「長くもあり、短くもあり」教職生活に
区切りを付けようとしている今、まさにこ
の心境である。特別支援教育、大規模校、
中規模校、小規模校、へき地・複式教育校と、
県内の様々な学校を経験できたことはとて
もありがたく、今後の糧になると思っ
ている。そこで学んだ「感謝・尊敬・内省」、学校の
経営者として取り組まれている校長先生方
の心の片隅に留めていただければ幸いで
ある。皆さんに感謝、今後も「健闘を祈っている。



周防大島町立明新小学校

林 哲也

初任校 広島市立井口中学校 (岩国市立麻里布中学校)

座右の銘 啐啄同時

二十年ほど前に、海外短期派遣研修でタ
イの教育事情を視察する機会を得た。学校
訪問で意見交換したどの教師も、国の発展
の礎は人材の育成にあり、教育が母国の明
日を担うという自覚と責任を持っているこ
とに、頭が下がる思いがした。教育の本質は、
日本とタイとは大差はなく、国の違いに
は関係ない。同じ教育に携わる者として、
タイで出会った方々に負けないよう一層努
力を重ねていくことを誓ったことを思い出す。

周南市立徳山小学校

酒匂昌二郎

初任校 下松市立公集小学校

座右の銘 我以外皆我師也

元日は学校に行くようにしている。
我が庭のように掃除してくださってい
る地域の方に感謝してお礼を述べる。
運動場で遊んでいる親子の微笑まし
い姿には心が温かくなる。
国研指定を受け「社会に開かれた教
育課程の実現」を目標としてきて教師の
想定以上の学びが生まれ始めてきた。
そのもととなったのは、地域に浸かる
ことだと実感しながら感謝している。

周南市立湯野小学校

山野 俊江

初任校 玖珂町立中央小学校

座右の銘 笑う門には福来たる

初めて子どもたちの前に立った時の
ドキドキした思い出、子どもたちの笑
顔を今も覚えている。今、学校には多
くの地域の方が来校される。コミュニ
ティ・スクールの取組で、地域の方と
も出会いと笑顔を大切にしていきたい。

周南市立和田小学校

守田 博行

初任校 周東町立周東中学校

座右の銘 人事を尽くして天命を待つ

「座右の銘」は、私が中学三年生の
時に、父親から言われた言葉である。
その頃、思うように成績が伸びず、志
望校を変更するかどうかを父親に相談
したことがあった。父は、こう続けた。
「自分が一番行きたい高校を受検しな
さい。他の学校に合格しても、きつと
後悔することになる。」
あれから今日に至るまで、この言葉
が何かをする時の支えになっている。



下松市立豊井小学校

武居 利彦

初任校 下関市立長府小学校

座右の銘 日日は好日

長府小四年、大河内小八年、大津島小四年、室積小八年、上島田小三年、東岐波小三年、浮島小三年、豊井小四年、三十七年間、子どもを身近に感じながら、子どもと正対し、「できない子をできる



光市立島田小学校

小川 寛

初任校 東和町立森野小学校

座右の銘 大丈夫 心配するな なんとかなる 一休

初任校五年の後、七十九+七十三+四十三、あつという間の三十八年。思いついても体が熱くなるような失敗もあり、なつかしくもはずかしくもある。江戸の水売りを見た田舎人二人のよ



山口市立良城小学校

増野 淳一

初任校 防府市立松崎小学校

座右の銘 だからこそその教育

どこに行っても、その児童、地域、教職員、今「だからこそできること、しなくてはならないこと」を求めている。そして、「私だからこそできること、しなくてはならないこと」も学校経営



山口市立平川小学校

内田 和明

初任校 萩市立明倫小学校

座右の銘 特になし

昭和・平成・令和と三つの時代の教育に関わり、時代とともに変化してきた。変化とともに良くなってきたことなど



山口市立名田島小学校

久保田貴美子

初任校 下関市立文洋中学校

座右の銘 日々がさら(まっさらな気持ちで日々を送る)

私は、中学校で三十年間国語科教師として、残りの七年間を小学校長として勤めた。勤務地も下関から始まって、県内各地を回らせてもらった。それぞれの場所で新しい出会いがあ



山口市立佐山小学校

多賀谷克己

初任校 周東町立高森小学校

座右の銘 気を強く広く大きく細やかに温かみのある人に

昭和五十九年四月から三十六年間、特段の取り柄もなく多くの御迷惑をおかけしながら過ぎ去って行った気がする。未熟な初任校での日々、研究や行政にいそしんだ日々、今は懐かしく愛



山口市立小郡小学校

田邊 広

初任校 菊川町立岡枝小学校

座右の銘 明日は明日の風が吹く

小郡小学校の児童数は四百二十名ほど。前任校が小規模で、全校児童の名前と顔がわかるのが当たり前だった。で、小郡小でも全校児童の名前と顔を覚えようと心に決めて実践した。



山口市立串小学校

黒瀬 和恵

初任校 下関市立角倉小学校

座右の銘 ていねいに生きる

小学生の頃、担任の先生に憧れ、私は先生になることを決めた。先生となって三十八年。これまで縁あって関わ



防府市立牟礼小学校 西岡 尚
 初任校 防府市立小野学校
 座右の銘 備えあれば憂いなし

準備したつもりでも、いつも憂いがともなっていたように思う。憂いがなくなるほど備えていなかったのだろう。しかしながら、なんとかやってこられたのは多くの方にお世話になったからに恵まれたと思う。



防府市立勝間小学校 梶田 崇晴
 初任校 福岡県八女郡矢部村立矢部小学校
 座右の銘 我以外皆我師也

教職経験三十七年を振り返ると、実に多くの方々に教えを請いながら続けてくることができた。ある人の言葉で、教育に対する考えが変わった。ある人に教えてもらったことで子どもに對する見方が変わった。その出会いで、やる気スイッチが入った。などである。多くの人との出会いを偶然に終わらせることなく、そこからの学びを大切にすることをぜひ伝えたい。



防府市立佐波小学校 長富 良子
 初任校 三隅町立三隅中学校
 座右の銘 楽あれば苦あり、苦あれば楽あり

人生においてさまざまな出来事に遭遇するが、私は、悩んだり悲しんだりするよりも、この難局が自分を高め、磨くチャンスと受けとめるようにしてきた。教職生活では、対応に苦慮した



防府市町立石田小学校 中川 栄治
 初任校 下関市立山の田小学校
 座右の銘 人事を尽くして天命を待つ

初任校は、千人規模の大規模校だった。若いうちに中規模・へき地校を経験しようと思いきや、一年間、一人の学級も経験した。また、学校以外の職場も経験させていただくこともでき



防府市立大道小学校 横川明千代
 初任校 下関市立王喜小学校
 座右の銘 人格・真・努力・礼儀・戒血気

昼休みは、汗だくになって子どもたちとかけずり回っていた。長期休業のときは、希望者を募り、弁当持参で池などに遊びに行ったこともある。また、土曜日は先輩方に誘われて、昼ご飯を



宇部市立恩田小学校 澤田 英人
 初任校 田布施町立田布施西小学校
 座右の銘 三 慧 (聞慧、思慧、修慧)

校長職を拝命し、早十年の歳月が流れようとしている。学校運営に当たり心がけてきたことは、三慧である。着任当初は学校概要について歴代の校長、会長に尋ね(聞慧)、学校への願いや



宇部市市立黒石小学校 岡崎 聡
 初任校 宇部市立上宇部小学校
 座右の銘 真心は真心に通ずる

「人を愛し、言葉を愛し、日々、研究に徹するこれは、教職三十八年間、常に自身に言い聞かせ、大切にしていた、私の人生、その基軸たる言葉である。人を敬愛し、そして、互いのつな



山陽小野田市立小野田小学校 今本美智子
 初任校 下関市立文閑小学校
 座右の銘 日日是好日

「趣味は仕事です。」と言って当時の校長先生から指導を受けた日を今、懐かしく思い出す。実は、こうして長い教職生活を終えようとしている今もこの思いは変わっていない。



山陽小野田市立赤崎小学校 河崎 知治
初任校 熊毛町立勝間小学校
座右の銘 不易と流行

今から十五年前に、社会教育主事として市教委に三年間勤務したことがある。ちょうど当時は国民文化祭山口大会が開催の時、県や市をあげての行事に冒頭したことを思い出す。そんな



山陽小野田市立厚狭小学校 野村 一也
初任校 田布施町立麻里府小学校
座右の銘 生きてるだけで丸儲け

夏に中学校時代の同窓会があった。既に亡くなられた同窓生のご冥福を祈り、皆で黙祷を捧げた。学校現場一筋で三十七年間、定年退職の年まで元気で勤められたことは、自分を取り巻く



下関市立名池小学校 松本 正子
初任校 下関市立王江小学校
座右の銘 できない言い訳をするよりできる方法を考えよう

新任教員の頃、何をやってもうまくいかず、三年我慢したら仕事を辞めようと思っていたのに、あつという間に退職の年となった。今まで続けることができたのは、お世話になった先生方、



下関市立生野小学校 浦川 雄二
初任校 下関市立垢田小学校
座右の銘 人間だもの

管理職として十一年。様々な思い悩み、希望を見失いかけた時もあった。私の心を支えてくれたのは、今も続く教え子たちとの交流である。成人式、校長採用、この度は還暦・と心から思う。



下関市立西山小学校 大野 克之
初任校 豊北町立二見小学校
座右の銘 一瞬一生

「電信柱にも頭を下げる思いで地域の人に接しましょう。」私が教頭として初めて赴任した町の教育長さんが言われた。管理職として身を引き締めてスタートが切れた忘れられない言葉だ。たことだろう。



下関市立豊浦小学校 井上 成人
初任校 下関市立川中西小学校
座右の銘 和顔愛語

「子どもと保護者と正面から向き合いたい、子どもたちの人生に少しでも役立つ」という想いでこの職に就いた。三十八年のうちの十五年を行政で過ごした教職生活であったが、社会教育、



下関市立岡枝小学校 岡田 敏男
初任校 阿東町立徳佐小学校
座右の銘 一期一会

「二期一会」の如く一度の機会を大切にしていきたいという思いで、三十四年間勤めさせていただいた。子どもたち、先生方、保護者・地域の方々、多くの人との出会いは、私の



下関市立檜崎小学校 中島 利夫
初任校 下関市立豊浦小学校
座右の銘 人間万事塞翁が馬

多くの方に支えられながら、昭和・平成・令和の時代を楽しく過ごすことができた。先輩や同僚からたくさんのことを学んだ。子どもたちからは常に元気をもらった。心より感謝したい。山口県教育のますますの発展を願う。



下関市立西市小学校

初任校 美祢市立伊佐小学校

大田 征和

座右の銘 今を生きる (新採時に出会った恩師の口癖)

初任校で出会った恩師の背中を追う。三十八年。追いつけた感はまだなし。教師修行の果てしなさを痛感し今を迎えた。一日の終わりに一杯のビールを口にし、うまい！と今日を振り返る時

間の大切さ。時に趣味に興じて、オンオフを切り替える大切さ。人との関わりの中に生き甲斐を見出す大切さ。この三つを「幸せを測る物差し」とする。今、お世話になった皆さんへ感謝する今。

下関市立誠意小学校

初任校 新南陽市立福川小学校

尾畑 豊樹

座右の銘 志を立てて もって 万事の源となす

出合いの中で

昭和六十年四月、初任校である新南陽市立福川小学校に着任した。四年三組の担任で、縁あって、五年、六年と持ち上がり、卒業を迎えた。三年間持

ち上がった児童の保護者から「先生、成長されましたね。」と、言われた。以来、三十五年、多くの児童、保護者、先生方との出合いの中で、成長させていただいたと、今、感謝している。

下関市立小串小学校

初任校 豊北町立神玉小学校

有富 純子

座右の銘 教師は授業で勝負する

教頭の時、一年間長期社会体験研修に行かせていただいた。医療・福祉の世界に身を置きながら、外から教育現場を見つめ直す貴重な機会であった。研修を通してたくさんの人と出合い、

そこで学んだ言葉、「目の前にいる人は、必ずどれかの大切な人」「命令よりも感謝の言葉が人を動かす」「いつでも勉強、いくつになっても勉強」は、その後の私の大切な指針となった。

萩市立越ヶ浜小学校

初任校 須佐町立育英小学校

松永 隆幸

座右の銘 至誠

平成十七年、萩市立椋西小学校は県内小学校初のコミュニティ・スクール。文科省研究指定を受け、研修主任として何もわからないまま研究をスタートさせた。私の学校経営は、その時の

経験や取組が基礎となっている。校長になり、地域の特色を生かし、地域の方と一緒に地域の学校をつくらうと取り組んできた。多くの関係者の方々に感謝でいっぱいである。



萩市立小川小学校

初任校 阿東町立嘉年小学校

戸倉 隆司

座右の銘 教師が変われば子どもが変わる

「先生が僕たちの担任ですか。」の子ども言葉と、「先生。」と言われた時の感動を、今でも鮮明に覚えている。新米教師としての日々は、授業では「分かった。」の言葉が発せられる学

習を、休み時間等では「楽しかった。」の言葉が発せられる活動を、それぞれ仕組むよう、日々心がけた。おかげで、子どもも私もお互いの成長を実感した学校生活となった。

萩市立育英小学校

初任校 田万川町立多磨小学校

坂倉 弘道

座右の銘 一期一会

初任の頃に教えた子どもが、「先生、元気ですか。」と会いに来てくれたり声をかけたりしてくれる。二十数年前に出会った保護者や地域の方に、今、またお世話になっている。人との出

いは、次につながり広がっていく、そのときは分からなくてもちゃんと意味があるのだと感じることが多い。教職を通して、たくさんの子どもの、先生、地域の方たちと出会えたことに感謝。

萩市立相島小中学校

初任校 山口県立聾学校下関分校

緒方 宏

座右の銘 感謝

座右の銘は一貫していたほうが、信念を貫く人の方がいいと思う。これまで、私の座右の銘は「不動心」で、何があっても自分の考えを大切に、自分の考えのもとに生きてきたつもり

である。退職するにあたって、自らの来し方を振り返ったとき、結局そうやってきた今の自分があるのは、すべての周りの配慮の賜物であることに気づいた。汗顔の至りである。感謝。



先輩方 ありがとうございます。バトンをしっかりと受け継いでいきます。

◆ 最終年度、まとめの研究 ◆
 研究部長
 坂本 哲彦
 (山口市立上郷小学校)

◆ 地域教育力日本一に向けて ◆
 対策部長
 西本 隆
 (下松市立下松小学校)

◆ 更なる内容の充実を目指して ◆
 広報部長
 井上 光晴
 (下関市立吉見小学校)

◆ 今年度の調査活動を通して ◆
 調査部長
 國友 孝
 (長門市立俵山小学校)

現在の研究主題の最終年度となり、副主題も昨年度と同じ「社会の変化に挑み 高い志をもって 未来を切り拓いていく子どもを共に育てる学校経営の推進」とし、研究のまとめを行った。秋季研究大会は、下松市で開催された。五領域十分科会では、担当支部の研究発表及びグループ別研究協議が活発に行われた。各支部においては、支部全体が共通理解し、組織的かつ各学校間の連携を図りながら研究を進められていた。そのため、協議は、具体的な意見のやりとりが行われ、充実した分科会となった。また、分科会に先だつて行われた講演では、國學院大學教授 杉田洋氏から「よりよい子どもを育て、学校を創る校長力」と題して特別活動の観点からこれから大切にすべき点について御指導頂いた。

対策部は、各支部の校長会や教育関係諸団体の貴重な意見を参考に、提言書の作成に取り組んでいる。提言書は、教育行政と学校が力を合わせて山口県教育を充実させるという視点で作成している。提言書説明会では、提言内容の説明とともに、学校の教育環境や教育活動の状況を交え、山口県教育の充実に向けた協議を行ってきた。本年度は、「地域教育力日本一」に向けた、コミュニケーションの目的や内容について意見交換が行われた。併せて地域連携教育を推進するための方策や新学習指導要領の実施に向けた状況、人材育成や働き方改革など、学校の実状を交え、本県教育を充実させる視点で協議が行われた。人材育成に携わる者は、「魅力的な教職員を育て、職に對する『あこがれ』を広げ、その『連鎖』で、学校を豊かにしていく」という使命を担っていることを確認した。

広報部では山口県小学校長会の活動方針に基づき、会員相互の情報共有の場となる広報誌「会報」と、本会の一年の取組をまとめた機関誌「歩み」の編集・発行に向け、二つの編集委員会を組織し、取り組んだ。「会報」は、内容の見直しを昨年度行い、その案に基づき内容を一部改訂、刷新した。特に本年度退職される校長先生方からの寄稿文は、大変忙しい時期に限られた字数での依頼となり、心苦しく感じるところではあったが、示唆に富んだ読み応えのある内容となり、大いに感謝するところである。

調査部では、昨年度の取組を引継ぎ、県小学校長会の活動方針に基づき、「調査処理委員会」と「経営管理委員会」の二委員会を構成し、継続的な教育調査と当面する課題究明のための調査研究を行った。まず、市町教育費調査では、各市町の財政について、今後も厳しい状況が続くと予想される。次に、次年度の学級編成及び教職員配置調査では、今後も児童数の減少・若手教員の増加の傾向にあることが明らかとなった。

十一月八日に鳥取市で開催された中国地区小学校長会教育研究大会では、大島支部が「知性・創造性」、周南支部が「リーダー育成」の分科会において、質の高い素晴らしい提案をされた。来年度から新たな研究主題、副主題のもと取組を開始する。十一月十三日には、山口市民会館を全体会場にして中国地区小学校長会教育研究大会山口大会を開催する。県全体で力を合わせて取組を進めて参りたい。

小学校長会として、学校の組織力の強化と学校運営の質的向上、人材育成等に努め、「未来を拓くたくましい『やまぐちっ子』の育成」に向けて、リーダーシップを発揮していく必要性を再認識した。

また、全連小が行った、小学校教育振興のための「小学校時報」「全国特色ある研究便覧」等の発行、特色ある学校のホームページ掲載に協力する事ができた。中でも、小学校時報八月号の表紙裏の「今月の言葉」は、本会の十九代会長上山忠夫様に御執筆頂いた。私たち後輩に魂のこもった熱いメッセージをお送りくださり、感慨深いものがあつた。

今後、経費削減、業務軽減等直面する課題と向き合いながら、それでもなお、役に立ち会員に親しまれ、より多くの方に手にとってもらえるよう、内容の充実と御協力をお願いしたい。引き続き、御理解と御協力をお願いしたい。

各 専 門 部 か ら の 報 告

以上、よりよい学校経営に関しては、「学校における安全対策と危機管理」を学校経営上の重要課題ととらえる校長が最も多かった。

さらに、教職員へ指導を図るべき内容では、「指導法・評価法を含めた授業改善」を選択した校長が最も多かった。

以上の調査結果から、今後、校長がより明確な経営ビジョンをもち、リーダーシップを発揮しながら、学校・家庭・地域との連携・協働を踏まえたやまぐち型地域連携教育を重点に置き、課題解決を図る必要があると言える。また、子どもたちの未来を見据えた教育を推進し、「生きる力」の基盤づくりに組織で取り組むことが重要である。

以上、よりよい学校経営に関しては、「学校における安全対策と危機管理」を学校経営上の重要課題ととらえる校長が最も多かった。

以上、よりよい学校経営に関しては、「学校における安全対策と危機管理」を学校経営上の重要課題ととらえる校長が最も多かった。

さらに、教職員へ指導を図るべき内容では、「指導法・評価法を含めた授業改善」を選択した校長が最も多かった。

今後、経費削減、業務軽減等直面する課題と向き合いながら、それでもなお、役に立ち会員に親しまれ、より多くの方に手にとってもらえるよう、内容の充実と御協力をお願いしたい。引き続き、御理解と御協力をお願いしたい。

以上の調査結果から、今後、校長がより明確な経営ビジョンをもち、リーダーシップを発揮しながら、学校・家庭・地域との連携・協働を踏まえたやまぐち型地域連携教育を重点に置き、課題解決を図る必要があると言える。また、子どもたちの未来を見据えた教育を推進し、「生きる力」の基盤づくりに組織で取り組むことが重要である。

支 部 情 報

柳 井 支 部

ワンチームとしてのつながり

柳井市といえば、「金魚ちようちんの揺れる白壁の町並み」というイメージかもしれない。しかし、実際には山間部あり島嶼部あり、大・中・小規模あり、多種多様な十一校からなる支部である。

柳井市の教育の目標は「愛、夢、志をはぐくむ教育」であり、特に「自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感」を高めることを重点としている。地域肯定感とは、ふるさとを愛する心であり、自分たちが生まれ育ったふるさとの歴史や自然を愛し、それを守りつなげる活動が重要となる。郷土を愛する心を高めてこそ、国際社会で活躍できる人材が育つと考えられるからである。

さて、個々の学校や校長の独創的な発想で、これらのことが展開できればよいのだが、自ずから限界がある。互いの取組を披瀝し合い、情報交換することによって深化する。定例の毎月の校長会は、会場を各学校の持ち回りとしている。そして、議事の最初は会場校の校長による自校の取組の紹介である。毎回、数多くの事例が紹介され、大変参考になっている。市教委からの指示伝達も

毎回だが、杓子定規なものではなく、現場の思いを汲み上げながらの内容であることも柳井支部の特筆すべきことである。

夏の校長会は、瀬戸内海に浮かぶ平郡島（平郡東小）が会場であった。昼間の研修後の様子を写真で紹介したいところだが、海の幸の写真ばかりで人物が写っていない。これは、和気藹々と語らう場が日常的な様子であり、わざわざ写真を撮る必要がないことの裏返しかもしれない。

市教委主催の校長研究集会も年七回開催される。所管説明のみならず、テーマに沿った研修の時間をもたれ、校長としての資質を高めるとともに、学校に持ち帰り即座に日々の教育活動に生かすことが多い。つまり、実のある研修になっているのだ。



（柳井市立奈田小学校 品川和之）

令和元年は「ワンチーム」という言葉

が流行語になった。しかし、柳井支部は、校長会と市教委の昔からの「ワンチーム」なのだ。

支 部 情 報

支 部 情 報

長 門 支 部

地域とともにある小中一貫教育 「長門みすゞ学園」の推進に向けて

長門市では、「ながとに学び、未来に生きる」という教育方針のもと、県内でもいち早くコミュニティ・スクールを立ち上げ、家庭や地域と協働した学校づくりを進めている。加えて、市内で五つある中学校区のもとをそれぞれ「みすゞ学園」とし、小・中学校の連続性や一貫性を重視して、九年間で子どもを育てる「長門みすゞ学園構想」の下、特徴的な取組を展開しているところである。

今年度、長門支部においては、五名の校長が新採・転入者として加わり、従来の充実した取組に新しいアイデア等を加えながら積極的に研修を進めている。

毎月、各学校を会場として行われる自主校長研修会においては、「みすゞ学園」としての取組の一層の充実を図るため、それぞれの特色ある取組に関する情報交換、小中一貫及び地域連携カリキュラム等の作成・充実に関する研修を継続して進めている。

特に今年度は、プログラミングの実

技やカリキュラム・マネジメント等、新学習指導要領へのスムーズな対応を図るための内容や、ICTの活用による業務改善等、昨今の課題に応じた内容をとり上げて研修を深めることにより、学校経営の責任者である校長に必要な資質能力を一段高めることができたように感じている。

本支部では、令和三年度の県秋季大会及び中国大会での発表を控えており、今年度の研修を礎とし、充実した提案ができるよう、これからもしっかりと準備を進めていく所存である。

青く澄みきった海、緑豊かな山々等、豊かな自然に恵まれ、且つ、山口県が誇る童謡詩人である金子みすゞや、昭和を代表する画家、香月泰男をはじめ、多くの偉人を輩出した長門市。この地において、ふるさとを誇りに思い、ふるさとを愛し、ふるさとの発展に寄与していこうとする子どもたちを育てるために、私たちは『チーム長門』として堅いスクラムを組み、強い気持ちをもって学校経営に力を尽くしていきたいと考えている。



（長門市立明倫小学校 河合辰雄）



本校には、歴代の P T A 会長、校長、教頭による年に一度の懇親会がある。昨年度の会でのこと、

前 P T A 会長（実は本校の卒業生）が思いを語った。「自分も子どもの頃遊んだなかよしの森がこの数年、木が倒れるなどして使えなくなっている。整備して子どもたちを遊ばせてやりたい。」この一言がきっかけとなり「なかよしの森復活プロジェクト」が立ち上がった。作業は夏休み。ボランティアを広く呼びかけたところ、保護者に加え、多くの地域の方が駆けつけてくださった。中には、「卒業生です。広島から来ました。」という方も。作業は想像以上に大規模なものとなった。作業の中心は不要な木を撤去すること。腕に覚えのある人がチェーンソーで次々に伐採。それをみんなで運ぶ。なかよしの森は整備され、復活した。本校の地域には、公民館が中核となる行事がある。中でも十月のコスモスマツリ、十一月の公民館まつりは、大イベントである。校長はそれらの実行委員会の一委員である。会議やまつり当日の出席はもちろんだが、事前の準備などに積極的に参加するよう努めている。委員としての義務感もあるが、何より地域の方が大変喜んでくださる。地域の方の知り合いも増える。子どもたちも関わる。五年生は創意工夫したかかしを製作し、コスモスマツリの会

場を盛り上げる。二年生は、地域の方の協力で栽培したサツマイモの一部を、公民館まつりの食材に提供する。小学校のサツマイモは大きくて評判がよい。

「なかよしの森復活プロジェクト」に地域の協力が得られたのも、日頃から学校と地域が関わり合い、つながっているからであろう。

それにもかかわらず、子どもたちの地域への思いは今一つである。なぜか。それは、地域との活動の意義を意識させる働きかけが不十分なのではないか。地域の方の思い、地域の方への感謝、自分の役割や貢献等、それらを機会あるごとに語り、考えさせていく。こうした働きかけがもっと必要なのだろう。ふるさとに誇りをもち、ふるさとを創る担い手としての意識を高めるために。

「校長はその町の幹部職員です。」前任校でも、現任校でも言われた言葉である。学校の中にとどまらず、地域や町の未来をも視野に入れた教育を追い求めたい。

地域の学校

田布施町立東田布施小学校長 濱本満登

日長耳飛

「驚き」の阿武町とともに

阿武町立阿武小学校長 宮内辰夫



四月、これまでの人生でたった一度しか訪れたことのない町での暮らしが始まり、地域の「ひと・もの・こと」何一つ知らない中で「地域とともにある学校づくり」を掲げて初めての学校運営舵取り役に挑んだ。阿武小学校に赴任して最初に驚いたことは、単独町政を

堅持する阿武町ならではの恵まれた教育環境である。学校施設・設備・備品等の充実はもちろん、町雇用職員の配置をみても教育に対する支援の力強さを感じる。多目的ホールのカーテンが全自動式で、フロアが床暖房の学校は他にあるだろうか。

次に驚いたのは、町の「宝」ともいえる恵まれた自然環境である。萩ジオパークの一角を担う阿武町ならではの紺碧の海と緑豊かな自然。「モドロ岬」「木与の棚田」「宇生賀盆地」「イラオ山」など優れた教材がすぐ近くに。その豊かな自然を生かす、阿武町の基盤となっている農林水産業を「ふるさと学習」として子どもたちが学ぶことは、ふるさとを誇りに

思い、ふるさとに貢献したいという気持ち育てることに繋がっていると実感している。

さらに驚いたことは、学校に足を運んでくださる方々の教育意識の高さや心の温かさといった恵まれた人的環境である。「くすの木ボランティア」による食農教育や丸付け等の学習支援、全校児童百二十三名の全家庭輪番制による朝の読み聞かせ、「寿齢会」による除草作業、有志による「うさぎ小屋リニューアル工事」など、まさに「地域とともにある学校」そのものである。また、さすがに納税率や投票率等で県内トップレベルを誇る町だけに、教育に関しても様々な場で熱心な議論が行われ、厳しいながらも温かい目を学校に向けてくださっている。

これら様々な恵まれた環境の中で育つ子どもたちではあるが、そこはさすがに教育の難しさ。条件が揃っていても、必ずしもよい成果が得られるとは限らない。町内小中学校共通課題である「表現力」をはじめ、山積する課題の改善に取り組む毎日である。

そのような中、「子どもたちの笑顔」を中心に、日々の学校生活の様子や阿武町の魅力を紹介する本校ホームページが今年度二百タイトル超え、アクセス数も例年の三倍超えが現実となっている。多くの「驚き」がある阿武町、そして阿武小学校にもっともつとめ心を寄せて頂ければと願っている。

山口市の一の坂川では、五月末から六月の初め、国の天然記念物であるゲンジボタルの乱舞を見ることが出来ます。岡田勝栄さんは、「大殿ホタルを守る会」の中心メンバーとして、一の坂川のゲンジボタルを保護する活動に取り組まれています。活動に対する思いや活動を通して感じられていることを伺いました。

***「大殿ホタルを守る会」の活動を始めたきっかけを教えてください。**

「大殿ホタルを守る会」は、それまで「大殿小学校コミュニティ研究会」が行っていたホタル飼育のための調査と準備を学校・地域・行政が協力して取り組むことができるよう、「山口ふるさと伝承センター」が平成三年にオープンしたのを機に組織されました。活動の中心は今も大殿小学校が担っており、当会の副会長は歴代校長が務めています。今年の放流は大殿小学校としては三十三回目となります。私は、定年退職をした頃、公民館長さんから声をかけられ、当時は「こうしたい」という強い思いではなく、流れがそうだったというようなことで、活動を始めました。

***現在、この活動に対して思われることはどのようなことでしょうか。**

戦後、ホタルの名所は減少してきましたが、県内外には自然のままのホタルの名所があります。佐波川水系、津和野川水系など「一の坂川」の何倍ものホタルが、本当に見事な、もったい

ないほどの乱舞を見させてくれます。しかし、国の「天然記念物」に指定されたホタルの名所は、全国に十一カ所しかなく、そのうちの二カ所が「山口ゲンジボタル発祥地」（山口市）と「豊田ゲンジボタル発祥地」（下関市）です。ですから、山口県はかなりの「ホタル県」と言えます。しかも、県都の中心市街

探訪シリーズ この人 この歩み



国指定天然記念物「山口ゲンジボタル発祥地」大殿ホタルを守る会の活動を通して事務局長

岡田勝栄さん

地でゲンジボタルの見事な乱舞が見られるのは、十一カ所中、ここ山口だけです。さらに山口自慢として付け加えるところ、昭和十年（一九三五年）十二月二十四日に国の天然記念物に指定されています。つまり、同じ日に指定を受けた「岡崎ゲンジボタル発祥地」と共に、全国で最も古い現存指定地として、日々最長記録を伸ばし続けていると言えます。余談ですが、クリスマス県山口としては、この十二月二十四日という日にも不思議な繋がりを感じるところです。

ホタルが住めなくなるような環境は、人にも厳しい環境と言えます。ホタル

に優しい環境は、人にも優しい可能性が高いです。ふるさと山口は人にもホタルにも優しい環境であり続けてほしいと願っています。父母の時代から今の子どもたちの時代へとこの活動は続いてきています。ホタルの魅力を知っている子どもたちの心の中には、もう既にホタルを繋いでいくという思いが広がっていて、今後も引き継いでいってほしいと思っています。

***最後にメッセージをお願いします。**

私は、ホタルの人工飼育に汗を流したおかげで、ゲンジボタルの卵の発光や孵化幼虫の水中発光を確認できました。また、室町時代の殿様の歌集「潤底螢」という和歌を手がかりに、この街がいかに、ホタルに託した深い思いがあるかが分かりました。私は、現場にいたいことが大切だと考えています。現場にいると必ずテーマがある。それを、何とかしたいなと思う、何とか自分で開拓していく。要はアンテナを立てておく、そしてアンテナに飛び込んでくるのを待つことです。そして、そのアンテナは無理矢理立てるものではなく、立つものだと思います。

「僕は今、実に楽しく遊んでいる。」岡田さんのこの言葉が印象的でした。自然にアンテナが立てられる自分について、現場で、「遊べている」と言える、そんな生き方を教えて頂きました。

（山口市立串小学校 黒瀬和恵）

編集後記

令和という新しい時代が幕を開けた。他業種同様、学校現場も世代交代の波が押し寄せ、続々と若い教職員が教壇で活躍するようになっていく。ちょうど、昭和から平成に移る頃、我々世代が数多く採用され、今とまさに同じような状況だったことが思い出される。一方で、学校を取り巻く環境は厳しさを増し、学校経営はもちろん、若手であっても、相当のクオリティを求められるようになった。かつて我々が先輩諸氏から教えを受けたように、教育界の資産とも言えるべき「経験の伝承」が今、急務となっているのではなからうか。令和最初の会報を発行するに当たり、前号では、「各校の取組紹介」を、本号では「退職校長先生方からのメッセージ」を新たに設け、大きく見直しを図った。「経験の伝承」に必要なものは、諸先輩が経験した「情報」であり、それを「共有」することである。今年度の七名の編集委員は、この会報が学校経営に刺激を与え、相互に高まり合える有益な情報となるよう心がけ、編集に取り組んだ。本誌が、諸先輩の教育理念や各校の取組をつなぎ、次の世代を育て一助となれば幸いである。結びにあたり、御多用にもかかわらず、原稿執筆を快諾して頂いた皆様に感謝の意を表し、編集後記としたい。